

## 11月30日講話会 報告

皆様こんにちは。いつの間にか年末を迎えました。お元気でお過ごしでしょうか。去る11月30日開催の講話会は、豊後大野市でまちづくりに取り組まれてきた赤嶺信武氏をお迎えし、『ふるさとの先達をまちづくりに活かす』と題しお話を聞かせていただきました。

### 【赤嶺氏のご経歴】

赤嶺氏は、三重町役場に昭和53年（1978年）に入庁し、その後企画振興課長として豊後大野市合併に尽力され、新市誕生後は、企画部長として豊後大野市の発展に努められました。赤嶺氏は、豊後大野市の誇りとする



歴史・神話を大事に考え、「ふるさとの歴史・伝説を受け継ぐ会」で、心を共にする方々とふるさとに伝わる伝説や遺跡などを調査、研究し『ふるさとの宝物』（その1）（その2）という書物（写真）



にとりまとめるなど、行政と市民が協力したまちづくりに心血を注がれたのでした。平成12年にご退職をされ、現在は、一市民としてふるさとの振興に努められています。

講話では、古い歴史をもつ『真名野長者伝説』の紹介をはじめ郷土の先達、特に近代に活躍の「後藤静香、朝倉文夫、末永仁（めぐむ）、重光葵（まもる）」の紹介がありました。今回は、そのなかの『真名野長者伝説』と『後藤静香』を中心にご報告致します。

### 1. 真名野長者伝説とまちづくり

これは、今から1500年も前の伝説です。三重町内山の一介の炭焼きの少年が、奈良の都からきた玉津姫と出会い、億万長者になったという壮大な物語で、ここには、後の用明天皇（聖徳太子の父）になった草刈山路という皇子まで登場します。郷土史に関心をもたれた地元市民が、この伝説を調査、顕彰していく過程で、APU（立命館アジア太平洋大学）の金賛會教授との出会いがありました。同教授は、この伝説が韓国益山（イクサン）市に伝わる百濟の武王伝説に似ていることから、これを比較研究、発表され、その内容が広く知られることになりました。この物語を契機にして



豊後大野市と益山市は、人的交流が始まり、2005年には、益山市長が豊後大野市を訪れ、友好交流協定を締結し、現在に至っています。

講話会の当日は、赤嶺様と共にまちづくりに力を尽くしてこられた佐藤芳延様（真名野長者研究会事務局長 写真左）も出席され、「赤嶺氏は行政の中核におられ、まちづくりの大きな力になって下さいました」と話されました。

### 2. 後藤静香（ごとうせいこう） 明治17年（1884年）～昭和44年（1969年）85歳

彼の名前は、現在、県内でも知らない人が多いのですが、全国的には知られている人物です。後藤静香は、数々の魂のこもった詩を遺しました。その中の一つ『第一歩』（ウラ面）の詩は、長嶋茂雄や松坂大輔選手が大事にしたと言われます。松坂選手は、横浜高校時代に甲子園で春・夏連覇をした大投手です。その時の監督（渡辺元智氏）から「誰の言葉かは知らないが」と前置きさ

第一歩

十里の旅の第一歩  
百里の旅の第一歩

同じ一步でも覚悟がちがう

三笠山にのぼる第一歩

富士山にのぼる第一歩

同じ一步でも覚悟がちがう

どこまで行くつもりか

どこまで登るつもりか

目標が  
その日その日を支配する  
「権威」より

れ、『第一歩』の詩特に最後の「目標がその日その日を支配する」という言葉を教わったそうです。この言葉が、松坂選手の心を捉えました。春夏連覇の偉業は、この言葉と無縁ではないことでしょう。このような偉大な言葉を発した人物後藤静香が、実に、大分県豊後大野市に誕生したのです。

後藤静香は、自らも社会奉仕の実践活動を進め、また愛情にあふれたことばを数々の詩として遺し、これらの言葉は、『権威』（善本社）という本にまとめられました。

### 《奉仕活動にも力を尽くされる》

後藤静香は、「愛に国境なし」の気持ちから、国境を超えた支援活動、救済活動を進めました。敗戦に苦しむドイツの児童やロシアの避難民の救済運動はじめ、点訳奉仕団を結成し点字図書館を支援する等、目の不自由な方への力となりました。また、結核予防や救ライ活動にも力をいれ、救ライ活動は、国内に止まらず台湾、インドなどアジアレベルでの活動を進めています。

また関東大震災では、発生の4日後に上野に救護本部を設置し、食料品、日用品、衣類などを頒布（原価の1/5）した他、ふとんを17千枚作り上げる等、大救護運動を展開したのでした。後藤静香の目は、いつも社会的な困窮者へ注がれ、希望や力を与えようと歩まれたのでした。

### 《権威の碑》

豊後大野市大野町杉園の生家跡には、『権威の碑』（写真右）が建立（昭和33年）されています。ここの碑の傍には明治天皇の御子、東久邇聰子（ひがしくにとしこ）様の歌「石ふみに のこる教をもとにして こころの家はいよよ栄む」が添えられ、後藤静香の活動を大変喜ばれていたことが伺えます。今は、訪れる人は少ないようですが、広く知られ多くの見学者を期待したいものです。



赤嶺氏は、郷土史家芦刈政治先生にお会いされ、郷土への歴史や人物に关心をもつようになりました。「我逢人」（我人に逢う）という言葉を紹介され、何事も人との出会いが大切であることを強調されお話を締めくくられました。（メモ 青井勝久）

### 【次回のお知らせ】

12月25日（水）

14:00-16:00

『六段の調べ』♪は、キリストン音楽♪だった！

講師：NPO 法人大友氏顕彰会 副理事長 佐藤弘俊 氏

於：ホルホール大分 302会議室 参加費 500円/人

《お問い合わせ先》一般社団法人すてきな大分を伝える会 青井勝久 TEL 080-3865-7104